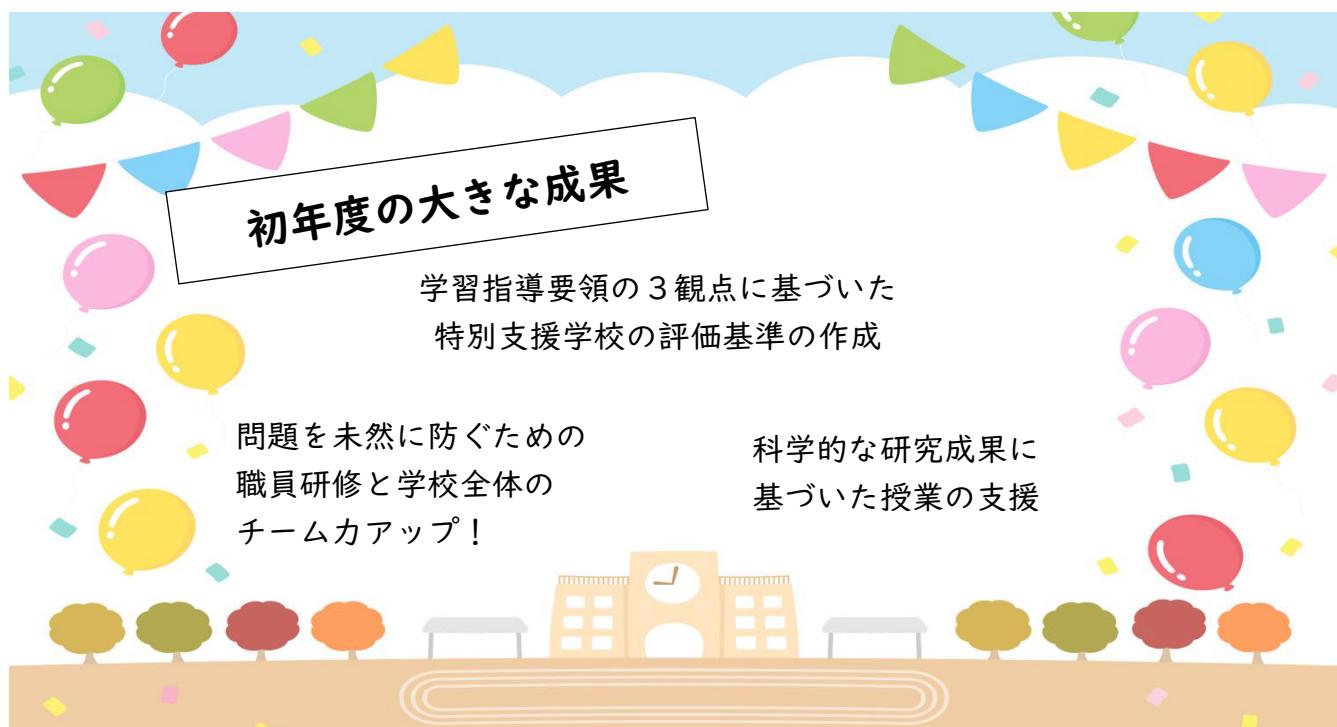


# スクールワイドポジティブ行動支援で

## 学校の先生・子どもをサポート！

特別支援学校で学校規模のポジティブ行動支援の実践



## スクールワイドポジティブ行動支援

実践 × システム × データ × 成果



すべての児童生徒の教育的・社会的成果を向上する

「学校文化」の改善

# 兵庫県立むこがわ特別支援学校での研究実践

# GOOD JOB! 実践

#### 【先生への具体的な実践力アップ】

- ・全体研修会「スクールワイドポジティブ行動支援」  
大阪樟蔭女子大学 准教授 田中善大先生
  - ・自主研修会「行動障害のある人へのボディワーク」  
関西応用行動分析学研究会 会長 門脇陽一先生
  - ・毎月の学校研究「学校全体で子どもたちのポジティブな行動を増やしましよう」（授業グループごとに具体的にポジティブな行動支援の方法を検討）



## GOOD JOB! システム

#### 【校内のシステムレベルアップ】

- ・学習指導要領の3観点である知識・技能、思考・判断・表現力、主体的に学習に取り組む態度に基づいて、各教科の評価の観点を見直し、教科ごとのポジティブな行動目標として「**教科マトリクス**」(※1)として一人ひとりの子どもの指導に使える**段階的な評価基準**ができました！
  - ・大阪樟蔭女子大学 田中善大先生の全面的なご支援の元で研究を進めることができました。
  - ・兵庫県教育委員会教職員自主研究推進事業の助成を受けて実践を行いました。

※ | 教科マトリクス（例：小1～3 算数、中1 国語）

学年（ ） 授業名（ ） 作成日（ 年 月 日）

学年（ 小1～3 ） 授業名（ 算数 ） 作成日（ 年 月 日 ）

# GOOD JOB! データ

## 【支援記録に基づいて支援を考える】

・教科のマトリクスに基づいた子どもの学習状態や教師の支援を毎回の授業で、6段階でチェック（※2）して、自分たちの支援の実態を段階的に評価しました！

・支援記録に基づき、子どもの指導目標の適切なレベルへの変更や、系統的で段階的な支援方法の見直しをフローチャート（※3）に沿って話し合うことができました！

・毎日の子どもの変化が支援記録に少しづつ現れると、チームや学校全体のやる気が出てきました！



## ※2 6段階の支援の記録表（例 「し」という文字をなぞり書きをする場合）

2.5 記録用紙 Ver.2

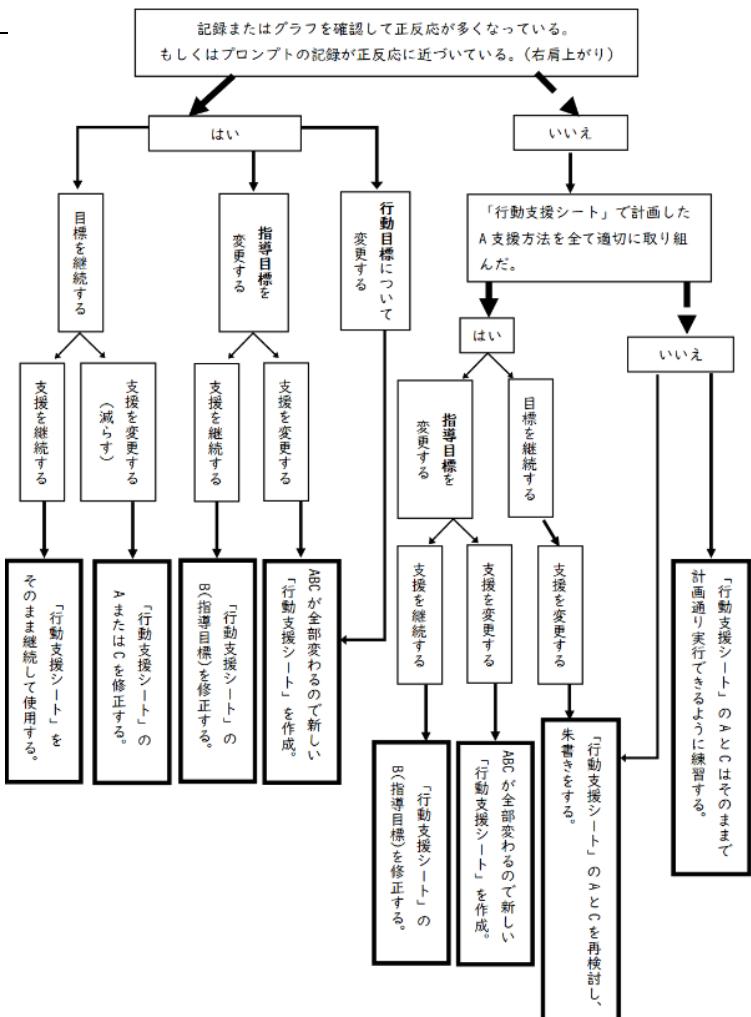
記録者（ ）

目標【「し」という文字をなぞり書きすることができる。】									
月/日と場面名 例：9/10ことばかず 9/10朝学習	9/11	9/11	9/13	10/4	10/8	10/10	10/17	10/21	
学習機会(回)	1	2	3	1	2	3	4	1	2
正反応 (プロンプトなしで)									
プロンプトありの正反応									
言語プロンプト									
指差しプロンプト				✓	✓	✓	✓	✓	
モデルプロンプト				✓	✓	✓	✓	✓	
身体プロンプト				✓	✓	✓	✓	✓	
誤反応	○	○	○	○	○	○	○	○	
備考欄	…	…	…	…	…	…	…	…	…

日々、記録したものを研究日に○や線で繋ぐことで見て分かる記録になりました！

学校研究 記録に基づいた意思決定フローチャート

令和6年10月5日作成



## プロンプトとは

正しい行動を生じさせるための手がかりやヒント、手助けといったものです。プロンプトには○○プロンプトというものが多数あります。その中で「言語」「指差し」「モデル」「身体」という4種類を取り扱いました！

記録用紙とフローチャート表は、大阪樟蔭女子大学田中善大先生に作成援助していただいたものを使用しました。

# GOOD JOB! 研究実践の成果

## 【適切な目標設定や適切な支援方法の選定ができる学校！】

個別の指導計画を作成する際に「**教科のマトリクス（各教科評価の観点表）**」により、子ども一人ひとりに合わせた目標を設定し、具体的な支援方法を検討することができました。

## 【業務の効率化ができる学校！】

研修の方法や内容をタブレット端末や動画等を用いることで同時間帯に複数の教室で**チームごと**に研修会を開催でき、それぞれのチームの進度で研修を深めることができました。

## 【評価方法の改善ができる学校！】

学習指導要領の3観点を具体的に授業改善に反映させるため、教科のマトリクスを学校で独自に制作し、今年度は国語と算数、数学の授業改善を行いました。

## 【データに基づく授業改善ができる学校！】

教師の日々の指導を記録し、毎月の研究日に、自分たちの記録に基づいて目標や支援方法を見直すことで、チームごとに支援力を高め、子どもの学習を推進させることができました。

## 【教員の援助の質が向上する学校！】

教師の授業中の援助を6段階の支援レベルで、教師が子どもの学習の状態に応じて支援することで、学習をより効果的に行うことができました。



## 【ひとつのチームとして機能する学校！】

授業改善で用いた研修方法は、日常的な子どもの行動問題や細やかな指導に関する検討においても、クラス単位、学年単位、教科の単位で共通の方法として検討でき、**学校全体が一つのチームとして機能することにつながりました。**

### ～本実践に関する担任の感想～

- ☆記録をとり、客観的に目標や支援方法を見つめ直すことが大切と感じました！
- ☆記録用紙を使うことで、その生徒の成長スピードが視覚的に分かりました！
- ☆研究日に学んだことは、チームの研究対象ではない子どもの支援にも参考にしています。ありがとうございます！
- ☆引き続き、先生方と**ポジティブ行動支援**について学んでいきたいと思った！
- ☆他の人と意見交換をしたり、一緒に考えたりすると、とても勉強になった！

### 参考文献

- 庭山和貴(2020) 学校規模ポジティブ行動支援（SWPBS）とは何か？—教育システムに対する行動分析学的アプローチの適応—。  
行動分析学研究. 34. 2. 178-197.

### 謝辞

本研究は大阪樟蔭女子大学の田中善大先生の全面的なご支援の元、進めてまいりました。また、研修費用として一部を令和6年度兵庫県教育委員会教職員自主研究推進事業より助成していただきました。皆様の並々ならぬご支援にいつも励まされています。そして、この実践研究は兵庫県立むこがわ特別支援学校の校長をはじめ、教職員の皆様のたゆまぬご尽力があってのことと理解しております。誠にありがとうございます。さらに、本研究が日本中の特別支援教育関係者から期待が寄せられるプロジェクトとして注目を集めていることも、感謝の念しかございません。皆様のご支援に感謝申し上げます。

自主専門研究会 副会長 吉見祐太